

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 14 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02101

研究課題名(和文)日本におけるサウンド・アートの成立過程の調査

研究課題名(英文)A Survey of the Development of Sound Art in Japan

研究代表者

中川 克志(NAKAGAWA, Katsushi)

横浜国立大学・大学院都市イノベーション研究院・准教授

研究者番号：20464208

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：主としてインタビュー調査と文献調査を行うことで、日本におけるサウンド・アートの基礎的な資料収集調査を目指した本研究は、1980年代の事例を中心にいくつかの事例に関する基礎的調査とそこから発展したいくつかの事例調査とを行うことで、日本におけるサウンド・アート研究の端緒となった。また、本研究では、アジア(韓国、香港、台湾)におけるサウンド・アートをめぐる状況を日本との対象事例として調査して日本における状況と比較考察することで、アジアにおけるサウンド・アート研究者間のネットワークの基盤を形成し、日本におけるサウンド・アート研究の端緒となったといえるだろう。

研究成果の概要(英文)：This research aims to gather the fundamental materials on "Sound art in Japan" mainly by conducting an interviewing and a document investigation. Focusing mainly on the cases in the 1980s, this research did some case studies and developed the result, and, as a result, became the beginning of the research on "sound art in Japan." Moreover, this research investigated the circumstances surrounding sound art in Asia (Korea, Hong Kong, and Taiwan) as a comparable case with the circumstance in Japan, forms the foundation of the network between sound art researchers in Asia, and became the beginning of the "research on sound art" in Japan.

研究分野：サウンド・アート、聴覚文化論、音響文化論

キーワード：サウンド・アート 音響文化論 聴覚文化論 現代音楽 現代美術 実験音楽 サウンド・ガーデン

1. 研究開始当初の背景

本研究は、日本における「サウンド・アート」の展開を研究したものである。

世界的には、「サウンド・アート」と呼ばれるようになる実践、あるいは「音楽ではない音を使う芸術」が作られ始めたのは1960年代後半からである。また、この言葉が頻繁に使われ始めるのは1980年代初頭からである。日本でも同様の事態が10年ほどの遅れで進行した。21世紀以降、今やサウンド・アートの作品は珍しくない。様々な国際展には必ずサウンド・アートが出品され、日本でも2012年の東京都現代美術館「アートと音楽」展など大規模な展覧会が開催されるようになっている。

この新しい芸術ジャンルが研究されるようになるのは90年代以降である。まず芸術家の言葉など基礎的な一次資料が整備され始め(Lander and Lexier 1990など)、同時期に感性論の領域から出てきた聴覚文化研究(Bull and Back 2003など)と互いに参照しあうことで、ますます盛んになった。これが21世紀以降のサウンド・アート研究の隆盛につながり、多くの研究成果が生まれてきた(Seth 2009, Voegelin 2010など)。いくつかの大学には専門の教育プログラムも設置され、2012年度にコロンビア大学にサウンド・アートを専攻するコースが設置され、2013年度にはSUNYにも同様のコースが設置された。サウンド・アートとその研究は成熟した領域となりつつある。

本研究はこうした世界的なサウンド・アート研究の隆盛を背景に、「日本におけるサウンド・アート」研究を目指して構想された。しかるに、本研究の構想時から、日本における「サウンド・アートに関する研究」と「日本におけるサウンド・アート」に関する研究は立ち遅れていた。研究代表者の中川克志、分担者の金子智太郎の予備調査によれば、日本で「サウンド・アート」という言葉が盛んに使われるようになるのは90年代以降だった。そこで、本研究では、それ以前に「日本におけるサウンド・アート」が登場してきた経緯を詳細に調査し、こうした実践と言葉を取り巻く力学を解明することで、「日本におけるサウンド・アート」に関する研究と、日本における「サウンド・アートに関する研究」に貢献することを目指した。

2. 研究の目的

そのために本研究は、まず第一に、日本においてサウンド・アートが登場してきた経緯の調査を目的とした。研究開始当初は、「日本におけるサウンド・アート」研究も日本における「サウンド・アート研究」もほとんどなかったため、本研究では基礎的な資料収集を重視した。また、「日本におけるサウンド・アート」の文化的位置づけの独自性を考察するために、比較対象として、東アジア諸国(香

港、韓国、台湾)におけるサウンド・アートをめぐる状況についても調査することにした。本研究は、これらを研究することで、国内外におけるサウンド・アート研究のさらなる隆盛に貢献することを目論んだ。

3. 研究の方法

そのために具体的にやったことは

- (1) 1980年代の日本におけるサウンド・アートに関わった人物へのインタビュー調査
- (2) 彼らの活動や作品を取り巻いていた言説を明らかにするための文献調査
- (3) 台湾、香港、韓国など東アジア諸国の状況の調査：各国における「サウンド・アート」に関わる人物へのインタビュー調査である。

4. 研究成果

本研究は以下のような成果を生み出した。個々の研究は個々の事例研究として十分モジュール化されているが、これらはすべて、「日本におけるサウンド・アート」研究の事例研究であり、それぞれ、「1980年代の日本におけるサウンド・アート」研究へと集約されうるものである。

平成27(2015)年度には当初の計画通りいくつかのインタビュー調査を行うことができた。1980年代日本におけるサウンド・アート調査の一環で、7月に関根秀樹氏に、8月に直川礼緒氏にインタビュー調査を行った。このインタビュー調査に基づき、調査報告を作成して発表した。また、当初は2015年度に行う予定ではなかったが、調査状況の進展にあわせて、2015年度にアジアにおけるサウンド・アート調査の一環でsoundpocketのディレクターであるYEUNG Yang氏にインタビュー調査を行うこともできた。このインタビュー調査に基づき、調査報告を作成して発表した。また、これらのインタビュー調査以外にも、セゾン文化財団の担当者との協力のうえ、studio200—1980年代日本におけるサウンド・アートに大きな刺激を与えた場所として、また発表の場所としても重要だった場所の諸資料を整理する仕事にも着手した。アーカイブ全体の整備はまだできていないし、公開のための体制も用意できていないので、成果の公表時期は未定だが、今後のための基礎資料を整理した。以上が2015年度の大きな成果である。

平成28(2016)年度には、当初の計画通り、さらには当初の計画以上に、いくつかのインタビュー調査を行うことが出来た。まず、1980年代日本におけるサウンド・アート調査の一環で、2月に「音・音楽・子どもの会」の創設者の一人である若尾裕氏に、3月に京都国際現代音楽フォーラムの創設者の一人である藤島寛氏にインタビュー調査を行った。平成30(2018)年度までには、

このインタビュー調査の補足調査を行ない成果をまとめて発表する予定である。また、調査状況の進展に伴い、アジアにおけるサウンド・アート調査の一環で、7月に韓国でYANG Ji Yoon氏とHONG Chul-ki氏にインタビュー調査を、2月に台湾でtheCube SpaceのJeph Lo氏とAmy Cheng氏、90年代から活動を継続しているWANG Fu-Jui氏とLIN Chiwei氏、ならびに彼らのドキュメンタリー映画『Ears Switched Off and On』を制作したCHEN Singing氏にインタビュー調査を行った。前者の韓国インタビュー調査成果は平成28年度に発表し、後者の台湾インタビュー調査成果は平成29年度に発表した。平成28(2016)年度にはさらに、本研究の中間成果を国際学会で発表することが出来た。研究代表者の中川は、7月に韓国で開催された国際美学会と12月にオーストラリアで開催された国際会議Crossroad2016において、当該研究内容に関連する研究発表を行った。研究分担者の金子は、7月に韓国で開催された国際美学会において、当該研究内容に関連する研究発表を行った。いずれも学会参加者との間で有意義な議論を行うことが出来た。

最終年度である平成29(2017)年度には1.1980年代日本におけるサウンド・アート調査と2.日本の状況と比較対照するための東アジアの状況調査と3.アジアを中心とする国際的な学術的ネットワークの構築を推進することができた。1.1980年代日本におけるサウンド・アート調査の一環で、中川眞氏(大阪市立大学特任教授)が所有する京都国際現代音楽フォーラムのアーカイブを調査した。この成果は2018年度にはまとめることができるだろう。2.アジアにおけるサウンド・アートの状況調査の一環で、台湾におけるサウンド・アートの状況を調査すべく、平成28年度に引き続き、台湾のサウンド・アート・シーンの中心人物たちにインタビュー調査を行った。この成果の一部は『常盤台人間文化論叢』に発表した。3.研究代表者の中川はフィリピンの国際的なメディア・アートのフェスティバルにおいて開催されたシンポジウムに参加した。日本からは中川が出席し、日本におけるサウンド・アートの歴史について報告を行った。東アジアや東南アジアのキュレーターやアート・スペース運営者や研究者らと議論を行い、有意義な意見交換を行った。アジアにおけるサウンド・アート研究のネットワークの基盤が形成されたといえよう。

以上をふまえて、最終的に本研究の最大の成果としてあげられるのは、本研究が、今後の「日本におけるサウンド・アート」研究と日本における「サウンド・アート」研究の拡大深化につながる萌芽的で基盤的な研究となったこと、である。とりわけ、本研究のこれまでの成果をとりまとめて、MIT Press出

版の世界的な学術誌 Leonardo Music Journal に査読論文を掲載できたことは、「日本におけるサウンド・アート」研究と日本における「サウンド・アート」研究の双方に貢献するものとして特筆しておきたい。今後は、「日本におけるサウンド・アート」のいくつかの事例研究をさらに深め、また、アジア諸国のサウンド・アートをめぐる諸状況との比較研究を深めていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 10 件)

1. 中川克志 2018 「サウンド・アートの系譜学：台湾におけるサウンド・アート研究序論」 横浜国立大学都市イノベーション研究院(編)『常盤台人間文化論叢』4: 115-126: 査読なし。
2. 金子智太郎 2018 「環境芸術以後の日本美術における音響技術 一九七〇年代前半の美共闘世代を中心に」 『表象』12: 169-183: 査読あり。
3. NAKAGAWA Katsushi. 2018. "The Possible Context of Sound Art in Japan in the late 1980s: The Case of Creative Music Making." 『横浜国立大学 教育学部 紀要 II. 人文科学 (THE HUMANITIES (Journal of the College of Education Yokohama National University))』20: 18-35: 査読なし。
4. NAKAGAWA Katsushi and KANEKO Tomotaro. 2017. "A Documentation of Sound Art in Japan: Sound Garden (1987-1994) and the Sound Art Exhibitions of 1980s Japan." Leonardo Music Journal 27: 82-86. : 査読あり。
5. 中川克志+金子智太郎 2017 「[調査報告] 「日本におけるサウンド・アートの展開 1980年代日本における音具をめぐりいくつかの文脈」 『京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS』8: 36-44: 査読なし。
6. 中川克志 2017 「1980年代後半の日本におけるサウンド・アートの文脈に関する試論— 民族音楽学 と サウンドスケープの思想と音楽教育学 という文脈の提案」 『國學院大學紀要』55: 41-64: 査読あり。
7. KANEKO Tomotaro and NAKAGAWA Katsushi. 2017. "Research on the Developments of Sound Art in Asian Countries: On Sound Effects Seoul series (Interviews with Ji-Yoon Yang and Chulki Hong)." Faculty of Urban Innovation (Yokohama National University) ed. Tokiwadai Journal of Human Sciences, 3: 161-173. (『常盤台人間文化論叢』3号: 161-173): 査読なし。
8. NAKAGAWA Katsushi. 2016. "The

Possible Context of "Sound Art" in Japan in the late 1980s: Ethnomusicology." in: Proceeding of ICA20 "Aesthetics and Mass Culture" published by 2016 ICA Secretariat, Department of Aesthetics, Seoul National University, Seoul Korea: pp.794-799. : 査読なし。

9. NAKAGAWA Katsushi and KANEKO Tomotaro. 2016. "Research on the Development of Sound Art in Asian Countries - Interview with Ms. Yeung, Yang (楊陽, founder and executive director of soundpocket in Hong Kong)." Faculty of Urban Innovation (Yokohama National University) ed. Tokiwadai Journal of Human Sciences, 2: 80-91. (『常盤台人間文化論叢』2: 80-91): 査読なし。

10. 金子智太郎 + 中川克志 2015 「日本におけるサウンド・アートの展開 スタジオ200における脱ジャンルとサウンド・アート」 『京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS』7 (2015年9月): 56-62 : 査読なし。

〔学会発表〕(計 7 件)

1. 中川克志 2018 「サウンド・アートの系譜学：台湾におけるサウンド・アート研究序論」 横浜国立大学都市イノベーション研究院 (編) 『常盤台人間文化論叢』4: 115-126 : 査読なし。

2. 金子智太郎 2018 「環境芸術以後の日本美術における音響技術 一九七〇年代前半の美共闘世代を中心に」 『表象』12: 169-183 : 査読あり。

3. NAKAGAWA Katsushi. 2018. "The Possible Context of Sound Art in Japan in the late 1980s: The Case of Creative Music Making." 『横浜国立大学 教育学部 紀要 II. 人文科学 (THE HUMANITIES (Journal of the College of Education Yokohama National University))』20: 18-35 : 査読なし。

4. NAKAGAWA Katsushi and KANEKO Tomotaro. 2017. "A Documentation of Sound Art in Japan: Sound Garden (1987-1994) and the Sound Art Exhibitions of 1980s Japan." Leonardo Music Journal 27: 82-86. : 査読あり。

5. 中川克志 + 金子智太郎 2017 「[調査報告] 「日本におけるサウンド・アートの展開 1980年代日本における音具をめぐるといくつかの文脈」 『京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS』8 : 36-44 : 査読なし。

6. 中川克志 2017 「1980年代後半の日本におけるサウンド・アートの文脈に関する試論— 民族音楽学 と サウンドスケープの思想と音楽教育学 という文脈の提案」 『國學院大學紀要』55 : 41-64 : 査読あり。

7. KANEKO Tomotaro and NAKAGAWA Katsushi. 2017. "Research on the

Developments of Sound Art in Asian Countries: On Sound Effects Seoul series (Interviews with Ji-Yoon Yang and Chulki Hong)." Faculty of Urban Innovation (Yokohama National University) ed. Tokiwadai Journal of Human Sciences, 3: 161-173. (『常盤台人間文化論叢』3号 : 161-173): 査読なし。

8. NAKAGAWA Katsushi. 2016. "The Possible Context of "Sound Art" in Japan in the late 1980s: Ethnomusicology." in: Proceeding of ICA20 "Aesthetics and Mass Culture" published by 2016 ICA Secretariat, Department of Aesthetics, Seoul National University, Seoul Korea: pp.794-799. : 査読なし。

9. NAKAGAWA Katsushi and KANEKO Tomotaro. 2016. "Research on the Development of Sound Art in Asian Countries - Interview with Ms. Yeung, Yang (楊陽, founder and executive director of soundpocket in Hong Kong)." Faculty of Urban Innovation (Yokohama National University) ed. Tokiwadai Journal of Human Sciences, 2: 80-91. (『常盤台人間文化論叢』2: 80-91): 査読なし。

10. 金子智太郎 + 中川克志 2015 「日本におけるサウンド・アートの展開 スタジオ200における脱ジャンルとサウンド・アート」 『京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS』7 (2015年9月): 56-62 : 査読なし。

〔その他〕

ホームページ等

中川克志 : Audible Culture

<https://sites.google.com/site/audibleculture/>

中川克志 : 横浜国立大学: 研究者詳細

http://er-web.jmk.ynu.ac.jp/html/NAKAGAWA_Katsushi/ja.html

金子智太郎 美学・聴覚文化論

<http://d.hatena.ne.jp/tomotarokaneko/about>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中川 克志 (NAKAGAWA Katsushi)

横浜国立大学・大学院都市イノベーション研究院・准教授

研究者番号 : 20464208

(2) 研究分担者

金子 智太郎 (KANEKO Tomotaro)

東京藝術大学・大学院映像研究科・講師

研究者番号 : 20572770